

【成分及び用量】

品名	ラピタ	
有効成分	d・d-T80-プラレトリン ペルメトリン	
含量	100g中 d・d-T80-プラレトリン ペルメトリン	2.0g 4.0g

ラピタ®

ピレスロイド系化合物2種混合殺虫剤

kg

【効能又は効果】

畜・鶏舎内及びその周辺の衛生害虫(ハエ・カの成虫及びハエ幼虫)の駆除。

【用法及び用量】

畜・鶏舎内及びその周辺の衛生害虫の発生又は生息する場所に応じて本剤を水で希釈して使用する。

ハエ・カの成虫:本剤の100~400倍水希釈液を適宜虫体に直接噴霧する。

ただし、畜・鶏舎内で噴霧する場合には1m²当たり25~100mLとする。

ハエ幼虫(ウジ):本剤の300倍水希釈液を1m²につき2L、幼虫の発生場所に散布する。

【使用上の注意】

1.基本的事項)

(1.守らなければならないこと

(一般的な注意)

・本剤は効能・効果において定められた目的のみに使用すること。

・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

・畜・鶏体への直接噴霧はしないこと。

(使用者に対する注意)

・病人、本剤に対する過敏症の人、妊婦、乳幼児等は、薬剤の影響の無い場所に移ってもらうこと。

・薬や化粧品等によって、アレルギー症状やかぶれ等を起こしやすい体質の人は、薬剤の散布や処理作業には従事しないこと。

・散布(噴霧)にあたっては、防護具(長袖作業衣、作業帽、保護メガネ、保護マスク、ゴム手袋など)および使用する機械器具類は、あらかじめよく点検整備しておくこと。

・使用に際しては、防護具を必ず着用し、できるだけ身体への露出部を少なくして薬剤を溶びないようにするとともに、吸い込まないように注意すること。なお、屋内での使用の際には必ず換気を行うこと。

・使用後は必ず手や指を石けん等で洗うとともに、水で十分うがいをすること。また、薬剤が皮膚についたときは石けんを石けん等でよく洗うこと。

・希釈の際には、薬液がはね返らないようにして均一に攪拌し、直接手指でかき混ぜるようなことはしないこと。

(取扱い及び廃棄のための注意)

・散布(噴霧)に当たっては、かけむらのないよう散布(噴霧)すること。ただし、環境を汚染しないよう乱用を避けること。特に散布液が直接河川、湖沼、海域又は養殖池に流入するおそれのある場所では使用しないこと。

・畜・鶏舎内の衛生害虫の駆除に用いる時は、薬剤が畜・鶏体に直接かからないようにすること。

・家畜・家禽の飼料、飼料箱、飲水、飲水器、搾乳機械、卵等はあらかじめ他へ移すかあるいは格納するなどの措置を施し、薬剤がかからないようにすること。採卵後または給餌前に散布(噴霧)すること。

・小分けたり、水で希釈するときは薬剤の容器は専用のものとし、食品用の容器等、誤用のおそれのあるものは使用しないこと。なお、小分けしたものは必ず使い切り、元の容器には戻さないこと。

・希釈した液は不安定なので、その都度必要量を調整し、使い切ること。また、直射日光の下に放置しないこと。

・本剤と他の薬剤を混合したり、加熱しないこと。

・蜜蜂、蚕(桑)、魚に被害を及ぼすおそれのあるところでは使用しないこと。

・使用済みの空容器等は石けん水でよくすすぎ、子供がもてあそぶないようにして、地方公共団体条例等に従って適切に処分すること。決して河川、湖沼、下水道等の水系や土壌を汚染するおそれのある場所には捨てないこと。

・食品、食器、飼料等と区別し、小児等の手の届かない場所、直射日光が当たらない乾燥した暗所に保管すること。

・使用後、残った薬剤原液は容器の栓を確実に締めて保管場所に戻すこと。

・使用に際して気をつけること

(使用者に対する注意)

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気か認められた場合や気分が悪くなった場合等には、使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、直ちに医師の診察を受けること。医師の診察を受ける際には、ピレスロイド系薬剤を含む殺虫剤を使用した旨、成分名(d・d-T80-プラトリンおよびペルメトリン)、症状、被曝の状況等についてできるだけ詳細に医師に告げること。

・万一、薬剤が目、口などに入った場合には、直ちに水でよく洗い流すこと。作業中に大量の薬剤を溶びた場合には、直ちに汚染された衣類を脱ぎ、シャワーを浴びるなど着る水の水で体に付着した薬剤を洗い落とし、清潔な衣類に着替えること。

・薬剤の準備や散布(噴霧)中は、喫煙、飲食をしないこと。使用中又は使用後にトイレに行くときは、手や顔をよく洗うこと。

・アレルギー体質等刺激を感じた場合には、直ちに使用を中止すること。

・本剤の有効成分の一つであるピロニルプロキサイドは、実験動物に経口投与したときに発がん性、発生毒性および変異性があるとの報告があるため、目、鼻、口等に入らないように注意すること。

(取扱い上の注意)

・アルカリ性の下では分解しやすいので、石けん液等の混入を防ぐこと。

・寒冷地などで凍結した場合には、50度以下のお湯で温溶させ、溶解させてから使用すること。

・漏洩した場合には次のように処置すること。

① 薬剤が漏洩した場合は、吸引器の媒体、例えば砂、軽石、ポロ布、オガク等にて吸着させ、吸込みを阻止して回収すること。

② 漏洩した薬剤が、井戸、池、河川などの水系に流入した場合は、直ちに警察または保健所に届け出をすること。

・散布液が植物にかかると枯れることのあるので注意すること。

・作業時の衣類は他の衣類と区別して洗濯し、防護具も洗剤を使ってよく洗うこと。

・希釈または散布(噴霧)に用いた機械器具類等は石けん等でよく洗い、小児等が触れないようにすること。特に噴霧器はよく手入れをすること。

【製品情報お問い合わせ先】

住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社 アマルム営業部

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号

TEL.03-6837-9481

獣医師、薬剤師等の医療関係者は、本剤による副作用などによると思われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。

ラピタは住友化学(株)の登録商標